

平成 30 年 6 月 16 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370134

研究課題名(和文) 日本中世における寺社縁起絵と仏教説話画の画像交流

研究課題名(英文) Images in Temple Legends and Buddhist Narratives: Their Interaction and Transmission in Medieval Japan

研究代表者

山本 聡美 (Yamamoto, Satomi)

共立女子大学・文芸学部・教授

研究者番号：00366999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、経典に由来する画像が寺社縁起絵や仏教説話画において共有され、中世を通じて継承された過程を明らかにした。

具体例として、『摩訶止観』に基づく画像である「九相図」が、『往生要集』や九相詩・九想の和歌や説話と結びつき、多義的に解釈されていた実態を明らかにした。さらに、『法華経』や『正法念処経』に基づく病の画像が、『病草紙』や「粉河寺縁起絵巻」において、罪深さの象徴として機能していた点に着眼し、これらの絵巻に関して因果応報観を読み込む新たな解釈を提示した。

成果の一部は、『九相図をよむ』(KADOKAWA、2015年)、『病草紙』(中央公論美術出版、2017年)などの出版物として公刊している。

研究成果の概要(英文)：This research project clarified how images common to both temple legends and Buddhist didactic narratives were transmitted through medieval times. For example, I traced how Kuso-zu (Illustrations of the Nine Stages, derived from the Mo-ho chih-kuan 摩訶止観), were tied to not only religious texts, but also works of literature such as poems and narratives, in which they were interpreted in various ways. I also examined images of illnesses and other disorders found in the Lotus Sutra 法華経 and the Shobonenjokyo; 正法念処経 (Sutra of Meditation on the True Law). As a result of my research, I proposed a new reading of scrolls such as the Illustrated Scroll of Illnesses and the Illustrated Scroll of the Legends of Kokawa dera that emphasized their representations of bad karma through such images of disease. Portions of this research have been made public in publications such as "Kuso-zu wo yomu" KADOKAWA, 2015, and "Yamai no soshi" Chuokoron bijutsu shuppan, 2017.

研究分野：中世仏教絵画史

キーワード：九相図 六道絵 病草紙 粉河寺縁起絵巻

### 1. 研究開始当初の背景

寺社縁起絵研究の原点は1970年代に遡る。中野玄三「社寺縁起絵」(『月刊文化財』97、1971年)及び同氏が担当した「社寺縁起絵展」(奈良国立博物館、1971年)において、仏教説話画や高僧伝絵との関連、絵巻から掛幅への展開など今日にもつながる論点が提示され、これは後に奈良国立博物館編『社寺縁起絵』(角川書店、1975年)として集大成された。また『日本絵巻物全集』(角川書店、1958~68年)、『新修日本絵巻物全集』(角川書店、1975~81年)、『日本絵巻大成』(中央公論社、1977~95年)においては、縁起絵巻研究の基盤が整備された。一方、日本思想大系『寺社縁起』(岩波書店、1975年)の公刊によって文学における縁起文研究も本格化し、その後資料紹介や翻刻などの基礎研究が飛躍的に進展した。

上記の蓄積を踏まえ、本研究課題に着手した2013年当時、寺社縁起絵研究は分野横断的に展開していた。縁起絵の景観構成や在地性、また絵解きとの関わりなど多角的な論点に基づく研究が、美術史学だけでなく文学や歴史学を含む広領域で活発化していた。特に、佐野みどり他編『中世絵画のマトリックス』(青簡舎、2010年)は、分野横断的な寺社縁起絵研究の論点や方法に関するその段階での到達点と、以後の方向性を示した成果であった。同書で提起された課題として、(1)絵巻に比べて立ち遅れている大画面掛幅画の研究基盤整備、(2)分野横断的な知識集積の必要性という二点がある。以上の状況を踏まえ、本研究課題では、先述(2)の問題提起を継承し、美術史研究においてしばしば分断されがちな、仏画・仏教説話画・掛幅縁起絵・絵巻など複数の研究分野を架橋した観点からの、寺社縁起絵史再構築を目指すものであった。

### 2. 研究の目的

本研究課題では、寺社縁起絵と仏教説話画において共有されている経説由来の図像を分析し、中世絵画における経説利用のメカニズムを解明することを目指した。その狙いは、仏画・仏教説話画・掛幅縁起絵・絵巻などに分断されがちな複数の研究分野を架橋し、典拠テキスト・図像・様式・絵師・注文主を視野に入れた総合的な中世仏教絵画史を構築する点にある。

### 3. 研究の方法

五年間の研究期間において、以下の作業を順次実施した。

(1)作品調査：既存の出版物利用や写真購入などの方法で細部の確認が困難な作品については、可能な限り作品調査・撮影を実施し、高精細(3600万画素クラス)デジタル一眼レフカメラによる、全図・部分図両方の撮影を行う。

(2)画像資料整理：代表者がこれまでの研究で

蓄積してきた画像をデジタル化する。

(3)画像と文献資料の分析。

(4)考察結果の発表：上記を通じて得た材料に基づき研究会等を重ね、成果について学会発表・論文・資料集・単行書として公開する。

### 4. 研究成果

(1)作品調査：国内外で、合計10件の調査を行った。フランス国立図書館にて「十王経図巻」「住吉のほんち」「浦島太郎」「七夕」。

クリーブランド美術館にて「融通念仏縁起絵巻」「熊野曼荼羅」。東京国立博物館にて「不動利益縁起絵巻」。スイス・ヌーシャテル民族誌博物館にて、絵巻を含む日本古美術の悉皆調査。ボストン美術館にて「吉備大臣入唐絵巻」。ハーバード大学美術館にて「因果業鏡絵」。フィラデルフィア美術館にて「高野大師行状絵」。ダブリン・チェスタービーティライブラリーにて「増賀聖人行業記」。九州国立博物館・京都国立博物館・福岡市美術館・大阪市美術館・サントリー美術館にて「病草紙」。サントリー美術館にて「放屁合戦絵巻」。なお～においては、作品分析のための写真撮影を行った。

(2)画像資料整理：カラーポジフィルム画像のデータ化に取り組み、1万9千枚程度のスキャンが完了した。

(3)研究会開催：国内外で、6件の研究会を主催、または参加し、成果報告のための議論を重ねた。2013年6月9日に、共立女子大学において日・米の研究者5名による院政期絵巻についての研究報告を主宰し、論点の発掘や方法論に関する情報交換を行った。なお、この研究会には50名ほどの参加者を得、本研究課題に関連した問題提起を行うことができた。2015年3月9日に、名古屋大学にて中世閻魔堂に関する研究会を主催し、4名の報告を実施した。2015年9月18日から19日まで、スイス・ジュネーブで開催された国際シンポジウム参加し、本研究課題の成果を報告した(「内なるジャポニスム 霊宝から視覚メディアへ、中世仏教絵画の近世的受容」Buddhist Japonisme: Negotiating the triangle of religion, art and nation Symposium, Musee d'ethnographie de Geneve, September 18-19, 2015)。2016年9月及び2017年7月に、ドイツ・ハイデルベルク大学及びアルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)にて『看聞日記』研究会に参加。2017年3月17日、AAS(Association for Asian Studies) Annual Conference 2017に、米・仏の研究者、日本国内の若手研究者や大学院生らと協働して、寺社縁起・中世仏教絵画に関するパネルを組織して参加。2017年7月8日に、共立女子大学にて画中詞に関する研究会を主催し、同年10月の説話文学会で成果報告を行った。

(4)成果について、図書・論文・学会発表として公開することに加え、講演等を通じて一般にも広く普及することに注力した。

(5)本研究課題成果物の一つである、『九相図をよむ』(KADOKAWA、2015年)が、第14回角川財団学芸賞を受賞し、研究成果の普及面について高い評価を得た。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

(1) 山本聡美 “Futanari, Between and Beyond: From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll of Illnesses” *Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)* (査読有) 3号 九州大学大学院人文科学研究科 pp.77-85 2018年3月

(2) 山本聡美 「共立女子大学図書館所蔵絵巻の基礎的研究 「竹取物語絵巻」「利仁草紙」「異疾之巻物(病草紙模本)」「鳥羽絵巻物(鳥獣戯画模本)」」『共立女子大学総合文化研究所紀要』(査読無) 24号 共立女子大学総合文化研究所 pp.140-186 2018年2月

(3) 山本聡美 「病草紙」における説話の領分 男巫としての二形」小峯和明監修、出口久徳編『日本文学の展望を拓く2 絵画・イメージの回廊』(査読無) pp.81-95 2017年11月 笠間書院

(4) 山本聡美 「粉河寺縁起絵巻」と経説 描かれた罪業・病・救済」安田政彦編『生活と文化の歴史学 8 自然災害と疾病』(査読無) pp.453-488 2017年3月 竹林舎

(5) 山本聡美 「共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」を用いた変体仮名教材制作」『共立女子大学総合文化研究所紀要』(査読無) 22号 共立女子大学総合文化研究所 pp.80-86 2016年2月

(6) 山本聡美 「仏教のこわい絵本 地獄絵と九相図」『別冊太陽 日本のこころ 230 こわい絵本 おとなと子どものファンタジー』(査読無) pp.134-137 2015年7月 平凡社

(7) 山本聡美 「破戒の図像 酒と飯のイコノロジー」伊藤信博、クレール=碧子・ブリッセ、増尾伸一郎編『酒飯論絵巻』影印と研究 文化庁本・フランス国立図書館本とその周辺』(査読無) pp.256-269 2015年2月 臨川書店

(8) 山本聡美 「平成25年度総合文化研究所研究助成「日本・東洋美術史に関する多言語教育の基盤整備」に関する報告」『共立女子大学総合文化研究所紀要』(査読無) 21号 共立女子大学総合文化研究所 pp.147-151 2015年2月

(9) 山本聡美 「中世絵画の生命誌 聖衆来迎寺蔵「六道絵」の制作と伝来」長岡龍作編『仏教美術論集5 機能論 つくる・つかう・つたえる』(査読無) pp.224-244 2014年4月 竹林舎

(10) 山本聡美 「九相図をめぐる過去と現在」

『宗教と現代がわかる本 2014』(査読無) pp.68-73 2014年3月 平凡社

(11) 山本聡美、エリカ・ペシャル=エルリ-「宴の時代 雅宴画と遊楽図」『共立国際研究』(査読無) 31号 共立女子大学国際学部 pp.115-132 2014年3月

(12) 山本聡美 「伴大納言絵巻」における経説の利用 伴善男邸に描かれた破戒のモチーフ」佐野みどり、加須屋誠、藤原重雄編『中世絵画のマトリックス』(査読無) pp.361-382 2014年2月 青簡舎

(13) 山本聡美 「経から絵巻へ 経説絵巻の詞と絵」『説話文学研究』(査読有) 48号 説話文学会 pp.13-23 2013年7月

(14) 山本聡美 「生と死へのまなざし 餓鬼、病、死体の世界」『太陽の地図帖 020 地獄絵を旅する』(査読無) pp.66-85 2017年7月 平凡社

(15) 山本聡美 「鳥羽炎魔堂の場と造形」加須屋誠編『仏教美術論集4 図像解釈学 権力と他者』(査読無) pp.99-113 2013年4月 竹林舎

[学会発表](計15件)

(1) 山本聡美 “The Resurgence of a Picture Scroll from the Rengeō-in Treasury: Prince Sadafusa’s Copy of and Insertion of Poems within The Illustrated Scroll of the Battle of Breaking Wind”, Movement and Materiality in Japanese Art, The Mary Griggs Burke Center for Japanese Art, Columbia University, 2018年3月10日

(2) 山本聡美 「宝蔵絵の再生 伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆」、『説話文学会平成29年度9月例会(シンポジウム「画中詞研究への視座 絵と言葉のナラトロジー」)』2017年10月7日

(3) 山本聡美 「竹取物語」の詞と絵」日本の絵ものがたりの世界シンポジウム Chester Beatty Library, Dublin, Ireland, 2017年8月4日

(4) 山本聡美 「『因果業鏡』絵巻の宗教空間」(コメンテーター) ハーバード美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ (The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shōtoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art”) Harvard University, 2017年3月24日

(5) 山本聡美 “The End of the “Sisters’ Power”: From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll”, 2017 Annual Conference of AAS (The Association for Asian Studies), 2017年3月17日

(6) 山本聡美 「日本美術史の闇と光 九相図をよむ」延岡市教育委員会、旭化成ひむか文化財団、夕刊デイリー新聞社主催「21世紀をひらく～歴史と文化の再発見シリーズ」2017年2月12日

(7) 山本聡美「病草紙 内なる異界としての身体」大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会「日本古典籍への挑戦 知の創造に向けて」2016年7月30日

(8) 山本聡美「病草紙における絵画様式の再検討」美術史学会東支部例会、2016年7月23日

(9) 山本聡美「往生要集の美術」九相図から読みとく源信の思想」天台宗布教師会関東信越地区協議会平成28年度研修会、2016年6月13日

(10) 山本聡美「日本美術にみる死の表現 西尾市岩瀬文庫所蔵「九相詩絵巻物」を中心に」岩瀬文庫連続講座・第158回 史料から歴史の謎を読み解く、2015年11月1日

(11) 山本聡美「内なるジャポニスム 霊宝から視覚メディアへ、中世仏教絵画の近世的受容 Japonisme inside Japan: Transformations from Holy Relics to Visual Media: Early Modern Receptions of Medieval Buddhist Paintings.」A Symposium on occasion of the Exhibition "Buddhist Japonism in Europe" in The Musée d'ethnographie de Genève、2015年9月18日

(12) 山本聡美「中世絵巻に描かれた病と死」第706回浅草寺仏教文化講座、2014年9月25日

(13) 山本聡美「醜い身体 日本中世仏教絵画における病と死」第9回藝術学関連学会連合(公開シンポジウム 藝術の腐葉土としてのダークサイド) 2014年6月7日

(14) 山本聡美「閻魔図像を読み解く 聖衆来迎寺蔵「六道絵」閻魔王庁幅における滅罪の思想」仏教文学会(六月例会 地獄絵を謎解く) 2014年6月14日

(15)青木保、榊山紘一、山本聡美「《中世》とは何だろうか? ~西洋と日本の中世:「貴婦人と一角獣展」をきっかけに~」国立新美術館第11回カフェアオキ、2013年6月8日

〔図書〕(計3件)

(1)加須屋誠、山本聡美編『病草紙』2017年5月 中央公論美術出版 総259頁

(2)サントリー美術館編『絵巻マニア列伝展図録』2017年3月 サントリー美術館 総239頁

(3)山本聡美『九相図をよむ 朽ちてゆく死体の美術史』2015年4月 KADOKAWA 総251頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者 山本 聡美

(Yamamoto, Satomi)

共立女子大学・文芸学部・教授

研究者番号: 0 0 3 6 6 9 9 9